

| | | | | |
|---|-----------------------|--|--------------------------|---|
|  | 号外 | 定価 1部2円 | No.号外4 2021年 1月13日 | 県整部交渉3年目へ。人員課題や職場課題など、職場と県職労の声の両面から、改善を求めている。 |
| | 昭和34年4月1日 第3種郵便物認可 | 発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県内 岩手県職員労働組合 | | |

2020評協議会交渉④ 12.24土木協・県土整備企画室長・技監交渉(人員編)

県整室長 中長期見据え 人材確保・平準化に努力

会計年度職員 来年度・特別配置枠30人程度確保

道路都市技監「コロナ禍でも大事な研修はしっかり実施」人材育成

県職労土木関係職員協議会では、県土整備部各公所において開催した職場実態に係る意見交換で出された課題をもとに、人員課題、諸手当改善、執務環境改善、会計年度任用職員制度課題などを柱とする県土整備部長あて要請書を作成し、12月24日に坊良県土整備企画室長に手交し、基本姿勢を確認するため交渉を行った。



坊良県整室長(右)に要請書手交(口岩中執・宮古土木)

人員課題に係る交渉結果は次のとおり(諸手当・職場環境改善関係は次号)。

【交渉結果】人員確保に関し、「頻発化・激甚化する自然災害で土木職の需要は高まり人材確保も厳しいが、即戦力の確保、受験者の確保、内定辞退の防止に人事課と連携し、あらゆる手法を講じ引き続き人材確保に努める」。また、激減する会計年度任用職員の対応に、「特別配置枠に繰越事業を踏まえ20から30人程度増員し、震災前と同水準へ。所属の要望に沿って措置を検討」との姿勢を確認した。年度途中の専門職種の代替確保は「会計年度任用職員で対応」と正規職員の確保難を示したことから、「ワークライフ・バランスも崩れてい



回答する坊良県整室長



実態を訴える交渉団

る。職員がしっかり休めるよう、余裕ある職員体制を」と要請した。人材育成策では、「平成15年の県の行財政構造改革の採用抑制により中堅層職員不足に。このことが、若手育成の影響、精神疾患につながり重大な課題。将来の県土整備部行政を円滑に運営するため、中長期的立場で毎年一定数の採用を行いながら平準化、バランスをとっていく。」とした。

人員確保など改善に向けた基本姿勢が示されるも、正規の代替職員確保など継続課題に。対応状況等を点検し、引き続き県土整備部へ改善を求めている(主な交渉結果は裏面)。

1 人員確保

(県 職 労) 総合土木職 (15 人) の欠員は重大な課題。現場では懸命に業務を担っている。各分野における専門職・事務職の最大限の確保を。

(県整室長) 頻発化、激甚化する自然災害により、土木職の需要は全国的に高まり、人材確保も厳しい。即戦力の確保 (他県応援職員や任期付職員の採用・更新、再任用の確保)、受験者の確保 (大学の採用担当者と意見交換し、県職員の“やりがい”を学生に伝達)、内定辞退防止 (内定者ガイダンス、OB・OG アドバイザー制度) などあらゆる手立てを講じ確保に努め、事務職も含め総務部との連携し引き続き確保に努めていく。



佐藤中執

2 専門職員の計画的採用

(県 職 労) 中堅職員の配置が厳しく、構造的に年齢構成がいびつ。業務遂行や若手職員への技術伝承が困難な状況が続く。中長期的課題として計画的かつ確実な採用により改善が重要だが見解は。

(県整室長) 平成 15 年の県の行財政構造改革により採用職員を抑えたため中堅職員不足に。このことが若手育成や精神疾患への影響、逸材不足など重大な課題と認識している。県土整備行政運営のため、中長期的立場で民間経験者や毎年一定数を採用するなど、平準化・バランスをとっていく。



釜石土木前川さん

3 会計年度任用職員

(県 職 労) 現場が円滑に進むためには会計年度任用職員も貴重な人材。どう対応を考えているのか。

(県整室長) 公共事務費の財源で保たれてきたが、震災から 10 年の節目を迎え令和 3 年度以降は激減する。来年度は 75 人程度まで減少 (令和元年 154 人、令和 2 年 135 人) すると見込まれる。しかし、財政課と協議を重ね特別配置枠として、繰越事業を踏まえ 25~30 人が増員される見込みとなり、震災前と同水準の 100 人程度へ。配置は職種を含め各所属の実情、要望に沿って措置する方向で検討してく。



花巻土木藤原さん

4 現場代表者からの職場実態・要請 (人員課題)

(河川課) 震災事業がクロージングしていくも、「防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策」により業務は増加する懸念があり、まだまだ忙しい。引き続き人員確保に努めてほしい。

(沿岸土木) ノウハウを身に着けた用地課の新採用職員が人事異動で一度職場を離れると戻らない。いざ災害が発生すると対応が苦しくなる。用地課業務を見据えた配置バランスをお願いしたい。

(盛岡土木) 災害公営住宅が完成し、メンテナンス業務が増えているが電気・機械職の配置が無いため建築職が担っている。是非電気・機械職の確保をお願いしたい。

(宮古土木) 会計年度任用職員の人員確保は強くお願いしたい。全職場を回って集約した意見を見ても、足りないとの声。事業が減ったからといって、業務が減っているわけではない。何とか維持を。

(県南土木) 運転技士 2 人は運転以外に除雪車両や公用車の管理など重要な役割を担っている。県内の土木部・センターでは再任用職員だけの職場もあると聞くと、きちんとした人員配置をしてほしい。

(花巻土木) 人が足りず職場に余裕がないと感じる。ワークライフ・バランスも崩れている。入庁しようにもその実態を知る学生は希望しないのでは。職場がしっかり休めるよう、もう少し余裕ある職場にしていかなければならない。